

《もくじ》

- 特集:東京電力福島第一原発の過酷事故から12年
- 2頁・福島原発事故の一段面～311子ども甲状腺がん裁判  
……河合 弘之(弁護士)
- 4頁・福島における甲状腺がんの多発～過剰診断という虚構  
……崎山 比早子(3・11甲状腺がん子ども基金)
- 6頁・つなげる想い～彩色墨絵が深めた人間交流  
……志田 弘子(「じやり道工房」主宰)

# 奔流

《第31号》

- 発行  
千曲川・信濃川復権の会  
〒184-0012  
東京都小金井市中町2-5-13  
FAX・TEL 042-381-7770
- 発行人・高橋 洋一(共同代表)
- 編集人・矢間秀次郎(事務局長)
- 干振替・00120-0-710488

題字揮毫・梅原猛

大河の一滴 (31)

## 照射した「日本の核開発」に浮遊する狂気と科学 戦争による唯一の被爆国が「原発大国」の矛盾

保阪 正康(作家)



太平洋戦争の戦時下で、日本も密かにウラン爆弾の開発に取り組んでいたことは今では

多くの人が知っている。陸軍は兵器行政本部と航空本部が理化学研究所の仁科芳雄研究室に、海軍は艦政本部が京都帝大の荒勝文策研究室に依頼していた。この「依頼」の意味がなかなか複雑な問題を含んでいた。

かつて私は、仁科研究室の二号研究と荒勝研究室のF号研究の内実を調べて書として刊行したことがあった。その折に原子物理学者を始めとする科学者や陸海軍の技術将校にも数多く会った。技術将校はむしろ軍の意向を受けて、その実現を図るべく科学者に命令を伝える。しかし科学者の側はそういう命令通りに研究開発ができるわけではない。陸軍側は仁科研究室に、1930年代にヨーロッパの原子物理学者は、ウラン235に中性子を当てると

核分裂を起こし、それが次々と連鎖反応を起こして爆発していく。膨大なエネルギーが生み出されてくることがわかった。折から戦争の時代に入ろうとしていた。

この発見が、特にヒトラーの側で兵器化され、戦争で用いられたらというので、アメリカがアインシュタインなどの要請をいれ、マンハッタン計画に踏み切ったことは歴史的事実であった。何しろウラン235はウラン原石の0.7%しかないのだから、爆弾にするには相当なウラン原石が必要だったのである。

技術将校や陸軍の軍事指導者などは、研究や開発の手がかりを仁科に求めた。仁科は製造開発などとても無理と二線を引いていた。海軍もそれと同じで、研究だけにとどめたいとの了解事項があった。

ところが昭和19年(1944)7月にサイパンが陥落して、日本の敗戦は次第に明確になってきた。すると軍事指導部の将官クラスが、理研に乗り込ん

できたというのだ。理研に席を置いていた原子物理学者に向かって、一刻も早くウラン爆弾を作れ、とサーベルを抜かんばかりにして怒鳴りまくったというエピソードが残されている。サイパンを奪回するために、そのウラン爆弾を使うんだとどなりまくったのであった。さらに科学者たちに、「お前たちは勤皇精神がないのか」とも詰め寄っている。

この話を紹介してくれた原子物理学者は、彼ら軍人は爆弾がどのようなものかを全くわかっていないと呆れた表情で語っていた。ウラン爆弾の製造を国を挙げて国民が一体となって、進めなくてよかった、サイパンに投下などしていたら日本の科学者は世界から相手にされていなくなるとうも漏らしていた。

アメリカでもマンハッタン計画に組み込まれていた物理学者は、広島、長崎への投下後は大体が戦後は反核運動に献身している。日本でも二号研究やF号研究に名を連ねた科学者たちのほとんどは反核運動に入っている。彼らの中の1人はウラン爆弾の威力を確認して、科学者は悪魔にもなりうる、と実感したとつぶやいていた。

●主な著書

- ①『日本原爆開発秘録』新潮社、②『昭和陸軍の研究(上下)』朝日新聞出版
- ③『昭和史 七つの謎』講談社。

# 東京電力福島第一原発の過酷事故から12年

## 次世代の未来を奪って「平和を破壊」する旧世代の背徳

若人の叫びに旧世代のひとりとして胸が疼く。8歳で原発事故に遭い、福島から東京へ避難してきた鴨下全生さん、「原発は僕らの世代から見れば、旧世代の迷惑な遺物。持続可能でもクリーンでも無い。それを知りながら、都合の悪い事実には蓋をして利権にすがり、後始末を先延ばしにして僕らに押し付けることを、僕は決して受け入れない。嘘と金と権力で動いてきた原発が溜め込んできた歪みは、膨大な放射性物質とともに僕らの平和を破壊した。たかが電気のために、この国はどれだけ大きなものを失ったのだろう。事故の責任を取らない国に、原発を動かす資格などない」(労働大学刊『まなぶ』本年3月号「いつまで叫べば伝わるのか」より)。ウクライナ戦争のエネルギー危機で利を得る好機と、「原発回帰」へ傾斜するニッポンへの告発である。



● 最初に  
「311子ども甲状腺がん裁判」は、東京電力福島第一原発事故に伴う放射性物質の影響で甲状腺がんになったとして、事故当時、福島県内に住んでいた男女7人が東京電力ホールディングス株式会社に損害賠償を求めている訴訟です。  
当初は6人で提訴しましたが、2022年9月に追加提訴があり、今は7人となりました。この7人の原告は、福島原発事故当時6歳から16歳、現在は18歳から28歳の若者です。全員が甲状腺がんの患者です。

### 福島原発事故の一断面

「311子ども甲状腺がん裁判」

河合 弘之（弁護士）

#### ● 提訴まで

この裁判を始めるにあたって「なぜ原告が7人しかいないのか。」「なぜ提訴まで11年もかかったのか。」を話す必要があります。福島第一原発事故以降、300人以上の子どもたちに甲状腺がんの発症が確認されています。200人以上が甲状腺の全摘又は片摘手術を受けました。普通ならこれらの人々が団結して100人超の集団訴訟が起きてもおかしくありません。しかし患者の人々は、甲状腺がんに罹ったことを他人に言えず、完全に分断されています。お互いの顔も名前も知りません。知っているのは家族だけであることがほとんどです。

なぜなら、日本政府や福島県が、原発事故による住民の健康被害は無いと決めつけており、メディアによってその認識が、日本の社会に浸透しているからです。被ばくによって甲状腺がんになっ

## ISF 独立言論フォーラム 会員登録とご支援のお願い

私たち ISF独立言論フォーラムは、広告に依存することなく真実探求と戦争廃絶と志を同じくする個人・団体のご寄付によって運営される独立したインターネットメディアです。ISF の活動にご賛同いただける皆さまの会員登録とご支援を心よりお願い申し上げます。

なお、会員登録をされた方のご支援いただいた方には、毎週のトピック・ニュースや毎月の ISF通信の配信、冊子『ISFの年間活動記録』の送付、ISF主催の公開シンポジウム・トーク茶話会への優先的参加と半額などの対応をさせていただきます。



「ISF 会員登録」 <https://isfweb.org/membership/>

「ISF へのご支援」 <https://isfweb.org/support/>

<https://isfweb.org>

ISF サイト QRコード





▲「311子ども甲状腺がん裁判NEWS」VOL.1より、先頭左から二人目が筆者

たと主張すれば、それは「福島復興を妨げる」として周りからバッシングされるのです。原告やその家族は、自分のがんの原因は被ばくであると考えていましたが、そのことを口に出すことができなかったのです。

しかし一方で、がんは確実に進行しました。原告らのうち4人は、手術後、がんが再発しています。原告の1人は再発を繰り返して合計四回も手術をしました。他の部位に転移した原告、過酷な放射線治療を余儀なくされている原告もいます。原告らの多くは生涯ホルモン剤を飲み続けなければなりません。このような苦しい状況に耐えな

ら、原告やご家族は11年経つてようやく勇気を振り絞って提訴するに至ったのです。

### ●被害の実相

この裁判でとても大事なものは、原告やその家族の被害の実相をきちんと把握し、伝えることです。原告の1人は、病気になってから、将来の夢よりも、治療を最優先し、将来の仕事につなげようとしていた勉強も、楽しみにしていたことも全部諦めてしまったと言います。そして、意見陳述の最後に「もとの身体に戻りたい。そう、どんなに願っても、もう戻ることではできません」と締めくくっています。

最年少の原告は、「自分の考え方や性格、将来の夢も、まだはつきりしないうちに、全てが変わってしまいました。だから、私は、将来自分がなにをしたいのかよく分かりません。」「恋愛も、結婚も、出産も、私とは縁のないものだと思います。」と法廷で話しました。そして、何度も将来が不安だと繰り返しました。

原告らは、学業、就職、恋愛、結婚、出産という人として当たり前の夢や希望、将来の姿を描くことすらできないです。この裁判では、因果関係や被ばくの有無なども争点になっています

が、実際にそこにいる原告、そしてその家族の被害の実相をきちんと把握し、裁判所、そして広く社会に伝えることがとても重要だと思えます。

### ●裁判の意義

「自分よりも小さい子どもも甲状腺がんになって苦しんでいる。だから、その子どもたちのためにも、先に大人になった自分たちが裁判を起こして、勝訴して、全員がしっかりとサポートを受けられるようにしたい。」原告の1人は裁判の意義について、このように話します。

そして、私たち弁護士も「目の前の7人、そして、その背後にいる300人以上の子どもたちを救いたい。子どもたちに対し、生涯にわたって安心して生活できるような支援制度をつくってほしい」という思いでこの裁判を闘っています。

### ●最後に

皆さんの温かい応援のメッセージは、私たちに勇気と力を与えてくれます。

勇気ある決断をした原告、そして、同じような被害に遭った子どもたちが真の意味で救済される日まで、一緒に手を繋ぎ、その手を離さず、勝利する日まで闘い抜きましょう。

年金のご相談はたましんへ



お客さまの幸せづくり

たましん

多摩信用金庫 小金井支店

小金井市本町2-5-4

TEL 042-385-1111

http://www.tamashin.jp



委員会(委員会)で発表されたそれ迄の検査結果を表に示します。悪性ないしその疑いが296人、その内238人が手術を受け1人が良性、237人が、がんと診断されています。しかし、

この甲状腺検査システムでは正確な発がん数は把握できないことが3・

# 福島における甲状腺がんの多発 ～過剰診断という虚構～

崎山 比早子(3・11甲状腺がん子ども基金、高木学校)

## ●福島における小児甲状腺がんの多発

放射性ヨウ素が甲状腺がんの原因になることはチェルノブイリ原発事故で明らかになっていきましたから、福島県では2011年10月から事故時18歳以下の県民約38万人を対象に20才迄は2年毎にそれ以後は5年毎の節目に超音波による甲状腺検査を行っています。

昨年12月の県民健康調査検討

11甲状腺がん子ども基金(基金)の事業から明らかになりました。1次検査で5・1mm以上の結節が見つかり、2次の組織検査で悪性ないしその疑いと診断されると委員会に報告され同時に広報もされますが、この時に診断がつかず、経過観察に廻されるとその経過中にがんと診断されても委員会に報告されません。

2016年から始まったがん登録によつて2018年迄にこの集計漏れが43人いることがわかり、基金も独自に8人漏れていることを把握していますので少なくともこれまで346人ががんと診断されたこととなります。委員会も甲状腺がんの多発自体は認めています。

## ●放射線被ばくとの因果関係の否定と過剰診断論

甲状腺がんと被ばくの相関関係を調べるためには正確ながん患者数と線量が必要ですが甲状腺の被ばく線量は信頼性のない1080人のデータしかありませんし、上述した集計外患者は分析から除外されたままで

す。委員会は被ばく線量の代わりに地域の汚染度を用いて発がん率との相関を調べることにし、汚染の高い順に避

## 福島県民健康調査で発見された甲状腺がん

第46回県民健康調査検討委員会(2022年12月2日)発表まで

	一巡目検査 (2011~2013)	二巡目 (2014~2015)	三巡目 (2016~2017)	四巡目 (2018~2019)	五巡目 (2020~)	節目検査 (2017年~)	計
悪性ないし 悪性疑い	116	71	31	39	23	16	296
		前回は異常なし:33	前回は異常なし:7	前回は異常なし:6	前回は異常なし:7		
男女比	39:77	32:39	13:18	17:22	5:18	4:12	110:186
がん診断	101 良性:1	56	29	34	7	10	237 良性:1
受診者数 (受診率)	300,472 (81.7%)	270,552 (71.0%)	217,922 (64.7%)	183,407 (62.3%)	80,205 (32.7%)	9,841 (9.1%)	

2~5巡目、2年間で異常なしから少なくとも5.1mm増大した人は: 164人中53人(32.3%)

難区域、中通り、浜通り、会津に分けて分析しました。1巡目の115人に関しては汚染度と相関を示しませんので、多発は被ばくの影響とは考えにくいと発表しました。2巡目の71人では避難区域で発がん率が最も高く

## あなたもご一緒に活動しませんか

●本会は、千曲川・信濃川の現状を憂い、河川を愛する人々、諸団体等の叡智と情熱を結集し、名実ともに日本一の大河に復権させることを目的とする。活動領域を本流にとどめず、「森・川・海とマチを結ぶ」ネットワークに努める。水環境のあり方を問い直しつつ、超党派で「全原発廃炉促進法」、「ダム撤去推進法」等の制定をめざす。

●本会の活動は会費及び寄付金等によって運営される。年会費は、下記の通りとする。但し、年度途中で入会した場合にも同額とする。①正会員:1口 1,000円を3口以上納めた方。②賛助会員:1口 1,000円を1口以上納めた方。(現在、会員268人)



▲千曲川源流を登った甲武信岳頂上から富士山を望む(撮影・矢間秀次郎)

会津で最も低いという相関を示しました。

この結果が出た後、委員会は地域の区分を国連科学委員会(UNSCLEAR) 2013年報告の線量に従って分ける方法に変えて分析し直すと相関関係が消失しました。それで相関を示した結果を無視し、多発は被ばくの影響とは考えられないと報告しました。

その後UNSCLEARは2020年報告で被ばく線量を更に過小評価し、2013年報告の1/2〜1/10としました。委員会はこれを用いて1〜3巡目までそれぞれを再分析し相関関係なしとしています。委員会もUNSCLEARも発がん率と汚染度との相関を示す複数の論文を正當に評価していません。

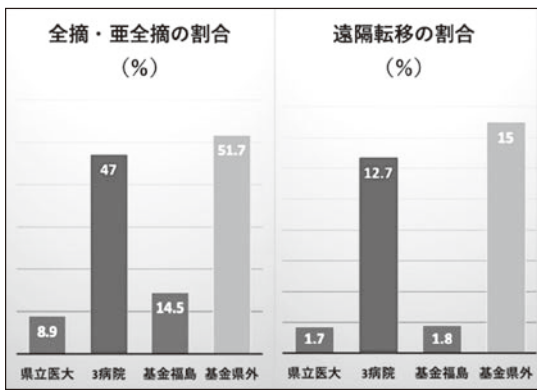
最近、環境省の強い意向が目立つ委員会では、多発の原因は被ばくではなく将来的に臨床診断されたり死に結びつかないがんを診断している過剰診断が原因とし、過剰診断の弊害をなくそうと学校検診縮小へと動いています。過剰診断とする主な根拠は被ばく線量の低さですが、その線量は過小評価され不確かです。

その不確実な線量を根拠に確実にあるがんの多発を過剰診断のためと強弁する倒錯した論理が現在広く一般に拡散し、人々を惑わしているのです。事故

後甲状腺検査を継続しているベラルーシからの報告は検査による過剰診断は起きないことを示しています。

### ●甲状腺検査は早期発見・早期治療に寄与

検診で発見されたがんの大部分を手術している県立医大の鈴木眞一氏による180例のデータ(県立医大)と一般病院(隈、野口、伊藤の3病院)の20歳以下の甲状腺がん479例の比較を図に示します。全摘・亜全摘(副甲状腺を残す)手術を受けると生涯甲状腺ホルモンを飲まなければなりません。その割合は県立医大では3病院の1/



5以下で、診断時に肺への遠隔転移がある例は1/7以下です。同様な傾向は基金申請者の中で福島県民(基金福島)と放射性ヨウ素が拡散しても甲状腺検査がなされていない1都14県からの申請者(基金県外)を比較しても見られます。

基金申請者123人の中では再手術、RI治療を受けた人はそれぞれ18.7%、14.6%あり、その頻度は事故時の年齢が低いほど多くなっています。遠隔転移がありRI治療を複数回受けた例もあります。即ち甲状腺検査は県民健康調査の目的である早期発見・早期治療に寄与していると言えますが、過剰診断論、検査縮小を支持するものではありません。

### ●がん当事者の声—終わりに

基金による当事者へのアンケート調査では過剰診断論への強い反発や戸惑いの声が聞かれました。学校における検査縮小に対しても90%以上が反対し継続ないしは拡大を望んでいます。

また自分が何故がんになったのか知りたいという声もあります。事故に責任のある当局は過剰診断論に惑わされず、被害者である当事者に納得のゆく調査、補償、支援をすべきです。





# つなげる想い……

## 彩色墨絵が深めた人間交流

志田 弘子 (「じやり道工房」主宰)

### ■国策による3度の棄民

日本のうたごえの祭典に染絵を使っ  
て頂けたことで、遠い能登へ東京から  
合唱団の方が訪ねて来てくださったの  
は2021年11月でした。

その折に、満蒙開拓、福島県津島の  
開拓、原発事故と、国策による3度の  
棄民を合唱組曲に……と熱く語られた想  
いに打たれ、触れてはいけないと思っ  
ていたことをもと知らなければ……と、  
改めて多くの書物を読み直しました。

津島を知りたい……と、福島駅に降り  
立ったのは2022年4月。待つていて  
くださった津島原告団の方たち6人と  
の1日目の交流会は4時間余り、改め  
てお一人お一人の家族や故郷へ寄せる思  
い、築いてこられたものが失われた怒り

書を提示しながら、ゲートからゲート  
へと、つぶさに案内していただけました。

満蒙開拓団の引き上げで、ようやく  
たどり着いた福島・津島。深い山の中  
で大きな切り株を掘ることからの開拓  
は、寒さと飢えと重労働の厳しい生活  
だったと。その中で、子どもたちは学校  
へ通うために何キロもの上がり下がりの  
道を駆け続けたと……差し掛け小屋で、  
わら布団で寝た生活の中、家の仕事を  
手伝うことが当たり前で、家族で力を  
合わせなければ生活できなかったと……

その苦勞しつづけた厳しい暮らしで  
ようやく建てた家が、壊れ、崩れ、大家  
族で囲んだ居間は床が朽ち果て、大き  
な穴が開いていました。村人たちが守つ  
た墓地は、重い墓石が転がったまま手つ  
かずに放置されていました。

広い山の中に点在した地区の皆が、  
団結しながら続けてきた暮らしが、築  
いたものが……大きな抗いのような力  
によって奪い去られてしまった無念さ  
……。事故の後も通い続けて守ろうとし  
た牛たち、今は空つぼの牛舎が青葉若  
葉のなかで朽ちようとしていました。

深い悲しみを秘めた山奥のその地の  
春は、ため息が出るほど奇麗でした。  
少し遅めの桜が満開で、主のいない庭  
や道筋には、丹精して植えた水仙が風  
に揺れていました。無人の小学校・中  
学校・高校が、桜に囲まれていました。

かつて駆ける少年や少女たちがそこに  
いたのです。貧しいながらも助け合い、  
喜びも悲しみも共にした本当の暮らし  
があったのです。目に浮かぶようで、胸  
迫る思いでした。あちらからこちらへと、  
広い津島の山の中を移動し続けました。  
お昼は遠い山を見ながら、ジャーの炊き  
込みご飯を皆で並んで頂きました。

■ただ、ただ故郷へ帰りたい  
満州引き上げの苦しみを越えて、過  
酷な暮らしの中、親から子へ、生きるた  
めの戦いを続け、ようやく築き上げた  
故郷でした。再び住むことを追われて  
しまった不条理の中で、培った団結力  
を根っこに、奪われた生活を取り戻し  
たいと立ち上がった皆さんの思いが、目  
に、心に、刻み込まれた津島でした。あ  
まりにも美しい津島……ただ、ただ、そ  
こへ帰りたい……と願う方たちの、深い悲  
しみに打たれた福島の旅でした。


2022年10月、東京・神楽坂での  
志田弘子作品展を終えることが出来ま  
した。

が、ぐいぐい  
と伝わりまし  
た。翌日は、  
立ち入り制限  
区域を、証明  
書を提示しな  
がら、ゲート  
からゲートへ  
とつぶさに案  
内していただけ  
ました。

が、ぐいぐい  
と伝わりまし  
た。翌日は、  
立ち入り制限  
区域を、証明  
書を提示しな  
がら、ゲート  
からゲートへ  
とつぶさに案  
内していただけ  
ました。

詩集 **九条川**

詩の朗読とお話の会  
開催予約受付中!



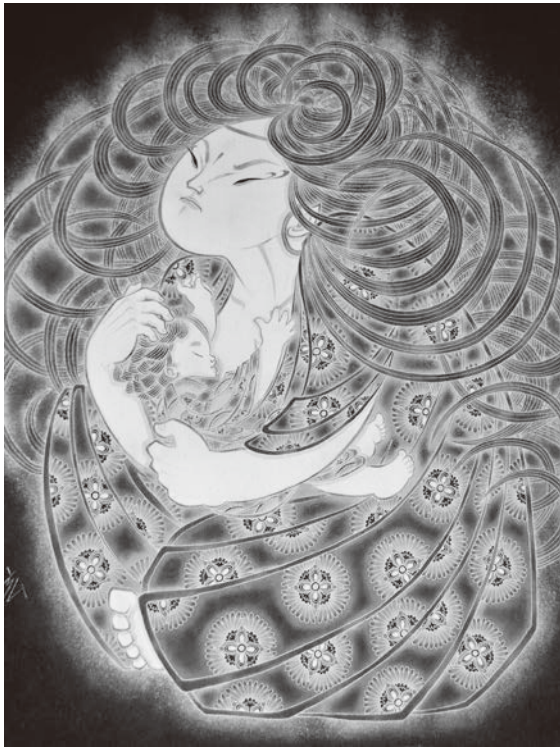
☆ 世代を越え 市井の一詩人がうたう平和への思い ☆

小学生以上お子様にもわかりやすい詩です。詩は作った本人が読むのが一番です。  
(日本現代詩人会会員・高橋嬉文)

開催ご希望の方は、5名様以上の参加者と場所をご用意下さい。  
時間は約1時間。費用は小田急線百合ヶ丘駅からの往復交通費を頂きます。  
講演料は無料です。

〒215-0003 川崎市麻生区高石 3-5-15 高橋嬉文

TEL・FAX 044-573-2830 携帯 090-6305-9136 E-mail kibun@g-conte.com



▲題名「鬼となりても(どうかこの子を奪わないで・母達の血を吐く叫びは届くだろうか)」

満蒙開拓、戦争のもたらした悲劇：万分の一を知り得ただけでも、積み上げた書籍の中からこの悲惨さを忘れてはいけない、繰り返しはいいけないといつぱいの叫びごえに、描かずにはいらなかつた絵の数々でした。

そして、それまでも福島のことや、避難された友人たちの深い絶望を感じる度に、一筆一筆、何か月かで1枚描き続けてきた布の染絵と共に、初めて恐る恐る並べた彩色墨絵の前に、福島の女たち、テント広場の方々、福島映像祭等、あらゆる出来ることで、情報発信を地道に続けて、今の方向を問うておられる方々、遠く近く、思いがけず多

くの方達が立ち止まってくださいます。平和を祈って行脚しておられた90歳のお上人さんが義足の足を引きずるようにして来られて肩に手を置いて、大きないのちのパワーを届けてくださいました。

わき道でいい、染を続けられていればそれでいいと思っていた身には、思いもよらない場所でしたが、こんなに同じ想いの方々が集う場所に居させてもらっている：と、厳肅な感慨が湧き続けた毎日でした。

10年余り前、リュックに創った絵詞を背負って福島を歩いていた折、三春の滝桜が話してくれました。人間たちの

愚かさも人間たちの優しさも見続けながらここにいます。大地に根を張り待っている：。

今、雪崩打つような流れの中、経験を話される方も少なく忘れられてゆく中、戦争がもたらす悲惨さを：原発で故郷を奪われた方たちの絶望を：国策に踏みまじられるいのちのかけがえのなさを：それぞれ皆がどんな形でも、諦めないで伝え続けたいと：心底願います。

●プロフィール

1952年 石川県能美郡川北村生まれ・石川県七尾市在住。

友禅を生業に45年余り。着物、花嫁暖簾から「じやり道工房」として近年は、母や子どもたちの染絵で、平和やいのちを願う活動が中心。

志賀原発から10<sup>km</sup>。「志賀原発を廃炉に」原告。のと同じよネット世話人。「きくと・きくと」めぐる・いのちの絵詞「その日はいつか」DVD制作。

〒929-2126

石川県七尾市大津町コ部76番地

電話 0767-683643

0800-63643406

e-mail: shida\_0601@opal.plala.

or.jp

HP: じやり道工房 jarimiti.com

増補版

# 揺るぎの時代を 生き抜く

## 環境運動50年の奔流

千曲川・信濃川復権の会事務局長  
映画プロデューサー

矢間秀次郎〔著〕



全国書店で  
注文受付中



かつてない“揺るぎの時代”の到来——流動化が進み、既成の価値観や社会システムにしがみ付いても、揺るぎが沈静化する保証はない。守るべきものはなにか、変革すべきはなにか。東京都職員でありながら、日本の河川行政の問題点を真正面から切り拓き、市民とともに全国的环境運動を盛り上げてきた50年のあゆみ。 ■四六判/296ページ/1800円+税

流域スポット(9)

福井県の北川総合開発事業と原発立地

〜 将来世代に非情なツケを回したモノコメント 〜

松本 浩(原発設置反対小浜市民の会)

原発立地には地理的条件がある。(1)大量の冷却用海水(温排水として海洋汚染)、(2)核分裂のエネルギーで蒸気を発生させ、発電タービンを回す真水の安定的確保、(3)阪神淡路大震災に見られるように活断層の存否など地質構造の安全性も厳しく問われる。

真水確保では、水利権をめぐるダム問題がからむ中で、原発開発計画を阻止したが、ダムによる国土破壊と膨大な税金の無駄使いをした実例を報告していただいた(編集部)。



1984年5月9日、福井県と上中井、小浜市の三者からなる

「北川総合開発対策協議会」が設立された。同協議会規約の第2条(目的)は、「本会は、北川総合開発事業(河内川ダム建設)の促進を図ることを目的とする」と記されている。

原子力発電所は、その建設から運転まで大量の真水を使用する。中川平太夫知事(当時)のダム建設は、小浜市田島地区への原子力発電所誘致計画の必要から浮上した。

当初、中川知事は、小浜市池河内地

硬策に打って出た。

浦谷市長の闘病中、その病状から再起不能と見た中川知事は1984年5月9日、福井県と小浜市、上中町からなる「第一回北川総合開発対策協議会」を密かに設立した。

筆者の同協議会に係る会議記録の開示請求(88年8月)に対して、福井県も小浜市も上中町も、その開示を頑なに拒否したばかりか、同協議会に基づいて国に提出された「昭和59年度河内川ダム認可申請書」の処理月日さえも明らかにしようとしなかった。

右は、本件認可申請書が浦谷市長の存命中に、同市長の意志に背いて提出されたことを示唆するものであった。

当時の「河内川ダム認可設計書」処理年月日は次のようになっている。

- ・昭和59年度 (非公開)
- ・昭和60年度 60年5月17日
- ・昭和61年度 61年5月7日

本件認可申請書に添付された「河内川ダム建設工事計画説明表」には、小浜市と上中町の上水道用とは別に上中町新道地区から小浜市田島へ送水する2万5920立方メートル/日の取水計画が記載されていた。

1984年7月、浦谷市長の死去に伴う小浜市長選挙に立候補した吹田安兵衛氏は、その選挙公約に「原発は如

時空間

時計修理 専門工房

池田良二

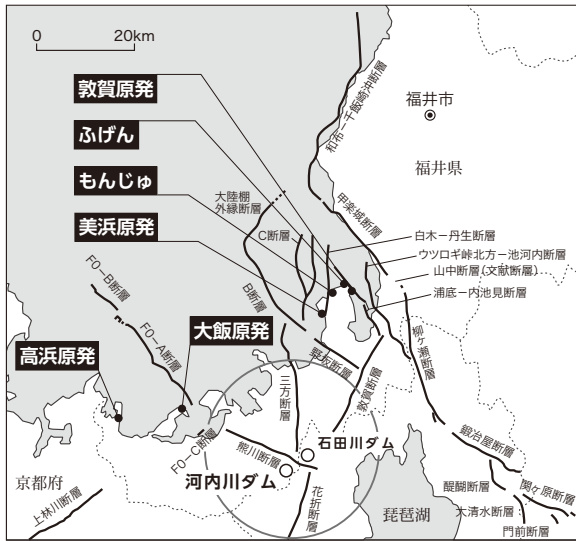
(一級時計修理技能士)

●お見積もり等のご相談に応じます。

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-4-2  
TEL & FAX 03-3263-4370  
地下鉄東西線・半蔵門線「九段下」駅6番出口







▲河内川ダム周辺の活断層と“原発銀座”(日本科学者会議福井県支部発行『福井の科学者』No132、2019年発行より)

何なる条件が整おうとも誘致しない」と明記して、無投票当選に持ち込んだが、当選直後から小浜市田島地区原発誘致(4基)の条件整備に着手した。しかし、原発誘致勢力の執拗な工作にも拘わらず、小浜市民は原発誘致と「使用済み核燃料中間貯蔵施設」誘致を許さなかった。ダムの様式も内容も不変のままに、事業費だけを186億円から234億円、415億円と増額した福井県等の策謀は、結局、数十億円に達すると見られる公金の不正支出の他には、ダム建設の目的を何一つ成し遂げることなく、自然破壊と公金の無

駄遣いに終わった。

原発推進勢力は、第一に小浜市への原子力発電所誘致を実現させられなかった上に、誘致すれば1200億円の交付金が入ると宣伝した「使用済み核燃料中間貯蔵施設」の誘致計画をも果たせず、多目的ダムの主要目的の原発用水は無用となった。

第二に、原発関連施設の交付金を当て込んで小浜市と上中町が計画したダム用水を水源とする百数十億円の水道拡張計画は崩れて、小浜市も上中町もダムの利水計画から撤退した。

第三に、活断層の巢の上に建設した河内川ダム(堤高77・5m、重力式コンクリートダム、有効貯水容量720万トン)には、肝心の水は溜まらないことが立証されつつある。2019年3月31日、河内川ダム完成式の際に辛うじて常時満水位に達して以来この方、ダムが常時満水位を維持したことは一度も

ない。

2017年9月15日、河内川ダム建設事務所で次のような会話があった。松本…地下水の豊富な小浜市も若狭町(上中町)もダムの利水計画から撤退して、ダムはもう利用価値がなくなりましたね。

課長…いや、松本さん。ダムは全国で洪水防止の役に立っています。

松本…だけど、北川の集水流域は210平方キロメートルなのに、ダムの集水流域はたったの14平方キロメートル、：わずかに7%足らずじゃないですか。雨は河内川ダム流域に降るんじゃないでしょう：洪水防止の役には立たないでしょう。

課長…いや、役に立ちます。河内川ダムは、将来への負の遺産であり、将来世代に非情なツケを回した「モニユメント」である。(正会員)

●参考文献(編集部)

- ①アジェンダ・プロジェクト編集発行『小浜市民はいかにして原発を拒否してきたのか〜中寫哲講演演録』2015年刊。
- ②原発設置反対小浜市民の会発行『若狭の原発を考える〜ほとぼり通信』
- ③山崎隆敏著『なぜ、「原発で若狭の復興」は失敗したのか』白馬社刊。

浅草うまいもの会加盟店

東京 浅草

大黒家天麩羅

電話：03(3844)1111・2222 公会堂隣



登録商標

読書の友

—あすのために—

地図から消えた村々 琵琶湖源流  
七集落の記憶と記録  
写真と文 吉田 一郎  
湖北アーカイブ研究所・3850円

よくわかる土中環境  
高田 宏臣 著  
PARCO出版・2000円＋税

揺るぎの時代を生き抜く(増補版)  
環境運動五十年の奔流  
矢間 秀次郎 著  
合同出版・1800円＋税

かつて琵琶湖に注ぐ高時川にあった七つの集落が地図から姿を消して久しい。大型ダムの建設計画(後に中止)や人口減少、山間地の衰退で「集団離村」がつついたからである。

本書が出版されたきつかけは2021年7月3日に発生し、多数の犠牲者を出した熱海の土石流とその後の調査、そして著者と小学生とのやりとりであった。

1972年、ドブ川と化した多摩川水系・野川と出会い始まった二公務員の五十年に亘る環境運動を四部に構成した実践記録である。

こうした湖北の「変わりゆく風土や人々」に好奇心を寄せて、ライフワークとして写真などで記録したのが長浜市役所職員だった筆者。変わり行く自然と人間に真摯に向き合って、「心で撮る」記録、『写心』に溢れていると、野外写真展を見た人の讃辞に頷く。

著者は土石流発生翌日から現地で災害状況を調査した結果から見えてきたことをブログで発信した。それは反響を呼び、山口県「長周新聞」が一面で取り上げた記事を読んだ小学4年生の田中麗花さんから問い合わせがあった。「私は自由研究で、熱海の土石流の原因を調べています。私も高田さんと同じ意見です。これからのような森にしたら、泥水がたくさん出ないようになりませんか?」

まず、戦後国策のダム建設の推進によつて多くの河川が本来の姿を失い流域の文化まで消滅させた。多くのダムが今や山地崩壊のリスクを増し、無用の長物と化した事を踏査と資料で論評、開発の闇を突き、今も続く国策のダム開発や原発拡大政策へのアンチテーゼを展開、河川の復権を唱える。次に都職員として公共への責務を如何に果たすか、水と緑の街づくりの提言や実践課題のノウハウが詰まる。野川再生活動では、「市民環境科学」を提唱、市民と共に死の川を甦らせた体験記で、市民運動への示唆に富む。

民俗学・柳田國男は『雪国の民俗』で「囲炉裏端で生活用品をつくる暮らしで、日本人の心の原型が育った」と述べていたが、山と川に活かされた湖北は、古代から中世にかけて畿内と北陸の海に通ずる「北国道」歴史の回廊であっただけに、もう一つの心の原型が育まれたのではないだろうか。川筋の暮らしの記録から往古の歴史を偲び、懐かし

著者はこのような問いに応えるために、イラストと写真で解説した著書出版した。土の環境を良くして安定に改善することが土石流を起さない健康な山を取り戻すと結論づけている。著者の専門を生かしたユニークな著書である。

結びに映画製作者となり、将来の検証に資すればと、活字と映像のコラボで原発・核、ダム開発の問題を扱った三本の映画を紹介。一途な環境活動家の警世の書である。高橋 嬉文(正会員)

池田 恵子(小金井市在住)

小倉 紀雄(東京農工大学名誉教授)

高橋 嬉文(正会員)

自然乾燥の無垢の木と漆喰で家をつくる 家を選ぶことは人生を選ぶこと

神崎隆洋 一級建築士 神崎隆馬 一級建築士

オールカラー さくら舎 sakurasha

〒102-0071 東京都千代田区富士見1-2-11  
TEL03-5211-6533 FAX03-5211-6481  
www.sakurasha.com  
ご注文は書店又は ☎0120-29-9625

自然乾燥の無垢の木と漆喰で家をつくる 人生を選ぶことは家を選ぶこと

自然乾燥のヒノキの家には神秘的な力がある! 新築・リノベーションに最適! 必見・必読の書!

●映画「悠久よりの愛」を見て③

福岡市立市民会館の建替計画で、須崎公園の約400本の高木のうち17本を残して伐採されることを知った市民が2021年に「須崎公園の大木を守る会」をつくった。建替計画の見直しと樹木の伐採に反対して活動を始め、市民運動が広がる中で福岡市は、計画の一部を見直して、公園内に101本を残し、217本を雁ノ巣地区に移植保存することになった。行政が関係住民への情報公開を怠り、説明責任を軽視した専横を「理不尽な公共事業」として市民が「NO」を突き付けたともいえる。

須崎公園の問題の本質は、福岡市が市民の合意形成のないままに、独断で見栄えがよい施設の整備を環境保全の視点が欠如したまま強行しようとしたのが「市民の公憤」を招いた例である。これまで福岡市には、人工島事業や五箇山ダム建設等の公共事業があり、今後も高速道路や地下鉄の延伸事業がつづく。このような住民と合意形成をしない不必要な公共事業に反対する運動が呼びかけられ、「理不尽な公共事業にNO!の会」が発足する運びとなった。



理不尽な「公共性」を問い直す市民活動  
～映画『悠久よりの愛』に学ぶ～  
荒木 昇龍 (福岡市市議会議員)

昨年11月5日、「理不尽な公共事業にNO!の会」の発会式を行い、記念イベントとしてダム問題を扱った映画「悠久よりの愛」脱ダム新時代」の上映と、馬奈木昭雄弁護士、矢間秀次郎映画プロデューサーの記念講演を企画。当日は福岡市長選挙の告示日の前日でもあり、参加者は64名と少ない状況でした

が、発会式としてはよかった。公共事業のあり方を問い直す住民・市民運動は全国に広がって、ダム建設計画を白紙撤回させた実例も11例あることを知り、「歴史に学ぶ」好機で未来の希望につながったからである。

この映画は、気仙沼の漁師・島山重篤さんらの山の植林から始めた新月ダ

ム反対闘争と、京都1000年の文化をかけて鴨川ダム建設を白紙撤回させた反対運動(写真・京都の古刹「志明院」田中真澄住職)を軸に、強行された八ッ場ダムや絶対反対を続けている長崎県石木ダムに反対する住民、ダム撤去運動を続け実現した球磨川荒瀬ダム、荒川の玉淀ダム撤去運動など、ダム問題と脱ダムに向けた動きが紹介されている。ダム建設は水循環を裁ち切り生態系を破壊し、住み慣れた地から理不尽に里人たちの退去を強要し、自然や文化を破壊するダム問題の実相を多角的に理解できたと好評であった。「理不尽な公共事業にNO!の会」では、まず九州各地の地域闘争の実践例を学びあう第1回集会を1月21日に有明海の問題、川辺川の問題などの関係者を福岡に招き開催した。これからも全国の「理不尽な公共事業」と闘っている皆さんとの連携を図るよう努めたい。

**映画「悠久よりの愛」上映会案内**

**第39回日本映画復興奨励賞 受賞記念**

日時:5月31日(水)13:30開場、14:00 上映(監督、プロデューサーの舞台挨拶あり)

会場:東京ボランティア・市民活動センター(セントラルプラザ10階、JR飯田橋駅西口、地下鉄「飯田橋駅」B2出口)

参加費:@1000円(当日受付支払、先着80人定員締切)

主催:水の映像フォーラム (FAX042-381-7770、矢間)

第39回日本映画復興奨励賞受賞

# 悠久よりの愛

～脱ダム新時代～

全国各地に既存ダム2,752基、治水・利水の大義名分も多発する水害で揺らぐ。もう国土にダム建設の適地はない。「人類の未来を阻害するダム」を撤去する脱ダム新時代をひらくヒントが充満。故郷を愛する人々への賛歌が響く…。監督:金子サトシ。

▲気仙沼の漁師・島山重篤さん。「森は海の恋人」植樹祭を32年前に始め、ダム建設を阻止した。

▲京都「志明院」田中真澄住職、京都1000年の文化をかけて「鴨川ダム」計画を白紙撤回させた。

本映画の上映会を開催して下さる方を募集しています。  
貸出条件や上映会のお申込みについては、上映委員会・矢間までご連絡を!

〒184-0012 東京都小金井市中町2-5-13  
TEL・FAX:042-381-7770  
<https://yukyuyorinoai.art.blog/>



# 水の輪

▼本文ヨコ@20字

(石橋 浩治)  
▼軍隊を捨てた国づくりで有名な中南米の小国「コスタリカに学ぶ会」に所属の筆者。スペイン語が堪能な星野弥生さんにお世話になりつつも、おつれあいの気功家・稔さんには映画『世田谷夫婦善哉』(2022年公開、製作：馬場



民子☎090-1651-4496)で病没後に出会った。「団塊の世代」のご夫妻が飼い猫のチャロ(16歳)をナビにしてくりひろげる夫婦善哉、「ネコだけが知っている二人の真実」にふれて、悔いのない終活をと心した次第。(矢間 秀次郎)

▼本号は(株)共同印刷所で5,500部印刷、次号は11月の予定。(佐藤 和雄)



郊外の広い畑の中に建つプレハブ造り、務局長(写真)「ここを訪れた人は二度びつくりする」という。埼玉県川越市

## 水系博物館・美術館めぐり③ NPO中帰連平和記念館 加害戦史の宝庫を訪ねて 原田 光子(正会員)

中に入つて、その所蔵資料の多さに、またびつくりするらしい。  
旧日本軍の加害証言をしてきた「中国帰還者連絡会」を引き継いだ「撫順の奇跡を受け継ぐ会」が17年前に設立。中帰連の諸先輩は、「再び同じ思いをさせてはならぬ」と、「加害の戦争」を記録して、「反戦平和と日中友好」を願い、被害者が加害者を赦した「撫順の奇跡」を伝えてきた。  
芹沢さんは「事実をなかつたことにはできない。真実を知ることが大切」と力説。日中戦争の資料ばかりでなく、故山住正己先生の蔵書など寄贈資料も増えて、「加害戦史の宝庫」である。中国で戦犯処刑を免れ、祖国へ帰還し得た「供述書」コピーや戦犯手記、「細

菌兵器製造の731部隊」証言記録など、DVDも多い。  
「宮沢賢治が好きで、冤罪事件がライフワークだ」というガイド・芹沢さんは81のボランティア。ロシアのウクライナ侵攻で戦禍が広がる中で平和を希求するためにも、わが国戦争加害の歴史の学び舎を訪れてほしい。  
●所在地 埼玉県川越市笠幡1948-6、東武東上線「鶴ヶ島駅」西口(タクシー10分)、JR川越線「笠幡駅」徒歩25分。  
開館時間 水・土・日曜日10:30~16:30(事前に電話、メール連絡が必要)。  
メール npo-kinenkan@nifty.com  
☎ FAX 049-2336-4711  
\*次回は東京都武蔵村山市「PTSDの日本兵と家族交流館」の予定。

◆◆ あげび書房 新刊のご案内 ◆◆

### 原発で重大事故

その時、どのように命を守るか?

見玉 一八 (著)

原発立地県・石川で30年にわたり原子力防災計画・訓練の研究・視察を続けた放射線技師の提言。

定価 2,200円


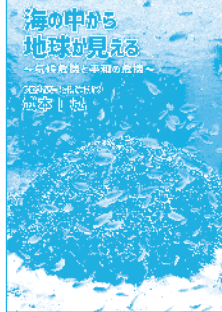
### 海の中から地球が見える

~気候危機と平和の危機~

武本 匡弘 (著)

地球の危機を救うために海から見えることを知ってほしい。タイピングキャリア40数年の環境活動家が訴える。

定価 1,980円

2 あげび書房 東京都杉並区松庵 3-39-13-103 ☎03-5888-4142 FAX03-5888-4448